

聖書日課 『からし種』 2024.6.9-6.16

<p>6月9日 (日) イザヤ 2章</p>	<p>「国は国に向かって剣を上げず／もはや戦うことを学ばない」(4節)。人の役に立てるための技術、自然のしくみを知るための科学が、鋤や鎌を剣や槍に打ち直すかのように軍事利用され、「戦うための学び」がどんどん簡単になっている。自国は手を出さず他国の戦いで利益を得るのも、戦っているのは同じ。戦うことではなく、愛することを聖書から学ぼう。</p>
<p>10日 (月) イザヤ 3章</p>	<p>「主は争うために構え／民を裁くために立たれる。主は裁きに臨まれる／民の長老、支配者らに対して」(13-14節)。聖書で「裁く」とは、罰するというより、自分の利益に捕われず、強者にも弱者にも偏らない措置をとることを言う。指導者や権力者と呼ばれる人々だけでなく、一個人である私も、主にはそのように「裁かれる」ことを覚えて緊張感を保ちたい。</p>
<p>11日 (火) イザヤ 4章</p>	<p>「その日には、イスラエルの生き残った者にとって主の若枝は麗しさとなり、栄光となる」(2節)。預言者イザヤは、圧倒的な強国からの侵略の脅威下で、自国の将来を幻に見た。「生き残った者」という表現が出るほどの破壊と殺戮の向こうに「美しい主の若枝」の希望を見る、その切なる思い。戦禍や迫害の中で祈り続ける人々も同じ思いをしているのだろうか。</p>
<p>12日 (水) イザヤ 5章</p>	<p>「わたしは歌おう、わたしの愛する者のために／そのぶどう畑の愛の歌を」(1節)。聖書では神が私たちのために歌われる。喜びの歌も(ゼファニヤ3:17)、今日のような悲しみの歌も。酸っぱいぶどうになってしまった私たちに代わって十字架へ向かわれるその夜のイエスの言葉「私はぶどうの木、あなたがたはその枝」は今日の歌のアンサーソングと言えよう。</p>

大井バプテスト教会

聖書日課 『からし種』 2024.6.9-6.16

<p>13日 (木)</p> <p>イザヤ 6章</p>	<p>「災いだ。わたしは滅ぼされる。わたしは汚(けが)れた唇の者…しかも、わたしの目は王なる万軍の主を仰ぎ見た」(5節)。「主を仰ぎ見たために滅ぼされる」と恐れ、咎を取り去るために炭火で触れられるとは、何と厳しい主との関係を生きる時代だったことか。そんな中で記されたイザヤ書から、いとも鮮やかに主イエスの姿が浮かび上がってくるのは感動的だ。</p>
<p>14日 (金)</p> <p>イザヤ 7章</p>	<p>「それゆえ、わたしの主が御自ら／あなたたちにしるしを与えられる。見よ、おとめが身ごもって、男の子を産み／その名をインマヌエルと呼ぶ」(14節)。マタイ16:4で「天からのしるしを見せよ」と迫る人々に、イエスは「ヨナのしるしのほかには、与えられない」と言われた。その通り、共におられるイエスその方こそ、主なる神が御自らくださったしるしなのだから。</p>
<p>15日 (土)</p> <p>イザヤ 8章</p>	<p>「先に／ゼブルンの地、ナフタリの地は辱めを受けたが／後には、海沿いの道、ヨルダン川のかなた／異邦人のガリラヤは、栄光を受ける」(23節)。これらの地は都から遠く、「ガリラヤ」とは「あの辺」という意味だったらしい。一時はアッシリアに征服されて痛みを受け、ローマの支配下では暴動も多発したまさにそこから、イエス・キリストの福音は始まった。</p>
<p>16日 (日)</p> <p>イザヤ 9章</p>	<p>「血にまみれた軍服はことごとく火に投げ込まれ、焼き尽くされた。ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれた。…その名は…『平和の君』と唱えられる」(4-5節)。これ以上、幼子が爆弾の犠牲になり、血が流されることがないように。「血にまみれた軍服」はもう要らない。「平和の君」として来てくださった方の名を皆で賛美する日が速やかに来ますように。</p>